

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：学園通り自治会

開催場所：志戸呂下公民館

開催日時：平成 28 年 11 月 16 日（水）19 時 00 分～20 時 51 分

参加者：自治会側【地域住民の方 46 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長、駒形戦略推進課係長、清水金谷南地域総合課係長】

内 容

① 佐塚自治会長あいさつ

- ・学園通りでは昨年市長に来ていただいてお話をさせていただいた。
- ・せっかくの機会なので、市長に聞いてみたいことなどを質問していただきたい。
- ・昨年、回答をしますとなっている項目で、回答をいただいていないものがあるので回答をしていただければと思う。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといって実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということだまわっている。

■学園通自治会の人口、世帯について

- ・学園通り自治会の 10 月 31 日現在の世帯数は 455 世帯、人口は 1,343 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 358 人、高齢化率は 26.7%となっている。市の平均が 29.5%。3 ポイントくらい高齢化が進んでいない。15 歳以下の人口は 250 人で人口に占める割合は 18.6%となっている。市の平均は 13.7%なので、5 ポイントくらい高い。若い方の世帯が多く、世代交代がうまく進んでおり、活力のある地域なのではないかと感じている。

■市民病院の建設、医療制度改革等について

- ・本日病院のことが新聞に載っていたのでそのお話から。
- ・昨日、病院の詳細設計の中間報告を議会に報告した。建設する場所は、野田の病院の敷地内。東側の駐車場に建設する予定。地上7階建て。
- ・ドクターヘリを屋上に整備し、救急棟、健診センターの建物は残していく。救急棟は一階部分を透析センターとしたい。平成32年度の末までには開院したい。
- ・病院に入る県道の右折レーンについても整備していく計画。病床数は445床、診療科目はほぼ同じ。
- ・今の病床数よりも病床数が減るが、これは、療養病床を無くすことによるが、病院を丸ごと機能別で仕分けていくという国の方針の下、急性期病院として整備していくためによるものである。
- ・同時に最新の医療機器を整備し、優秀な医師を確保していくことも行っていく。
- ・2025年（団塊の世代が全て後期高齢者となる年）を目途に、施設から在宅へという流れを考えている。国は医療費が毎年1兆円も伸びている状況において、入院日数を減らして医療費の削減を図ろうとしている。
- ・この医療制度改革をにらんで、市では24時間訪問看護ステーションを今年度から開始している。市内の開業医の高齢化に伴い、往診も厳しい状況にある中で、医師の指示書に基づきナースが医療行為をし、入院が必要であれば市民病院へ入院してもらう。
- ・地域包括ケアシステムは、医療、介護、介護予防、生活の支援、住まいをトータルで支援するシステムのことであるが、このような取り組みを進めている。市内で地域包括センター（高齢者あんしんセンター）は6箇所あるが、この周辺では北支所にある。高齢者の悩みなどの御相談に応じている。
- ・市民病院の駐車場は現在913台程度止められるが、新病院建設中は、市有地の活用、民間の土地を借地して、できる限り来院者の駐車場を確保したい。職員駐車場は中央公園の駐車場を活用する。新病院建設後の駐車台数は960台程度を見込んでいる。
- ・液状化の可能性はない。過去35ヶ所のボーリング調査を実施し、今年度は6～8箇所調査している。粘土質であるが岩盤までの距離はある。土壌改良と岩盤まで杭を打つことで建設には支障がないとの設計業者の話を受けている。
- ・県道については、電柱等が倒れても、建設業者との協定に基づき速やかに除去できるよう病院にアクセスできるようにしていく。
- ・事業費は基本構想で出された247億円を上回らないようにしていく。
- ・ダヴィンチXiという最新医療機器の導入については、前立腺がん等の保険適用となっているが今後、胃がんや子宮頸がんも保険適用となることが期待される。3Dによって治療でき、ロボットのアームは360度動くので、手術の精度は高まるものと期待している。出血や痛みは少なく早期退院ができると思う。来年1月から稼働させる予定。

■地域の抱える課題等について（その1）

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少と少子高齢化。
- ・2030年くらいには、働いて税金を払ってくれる人の数が減っていく。（人口の約半数になると推計されている。）
- ・市民が住みなれたところで安心して住み続けられるようにしたい。それが行政の役割だと思っている。
- ・島田市は県内で一番離婚率が低いまち。持ち家率が多い（県内2位）。軽犯罪率が少ないまち。住み良いまちだと考えている。
- ・地産地消で安心できる食物がある、大井川の豊かな伏流水もある。自分の地域を愛し、その地域のために何かしら行動したい人が多いまちでもある。
- ・隣の市などは人口が増えていても住むために住んでいて帰属意識を持っていないと思う。帰属意識を持っているまちだと思っている。そういう意識が地域の安心・安全につながっている。このような安心・安全は目には見えないが、そういうものにこそ価値があると思う。

■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ1,400㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。
また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。（今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。）
- ・基本計画の内容については、11月から12月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの支店を交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。
- ・首都圏からの観光バスの往復500kmの位置が、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺の地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。
- ・交通網の拠点となる場所がインターチェンジ周辺だと考えている。
- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。（アンケート調査などの結果では20社ほどの引き合いもある。）

- ・牛尾山と一豊堤のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の6月1日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になる方が、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望があり、実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し、全国的にも例を見ない、お茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていききたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の薬能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・和食を世界文化遺産とした熊倉功夫先生も牧之原台地は自分のライフワークだと言っている。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は11月1日から2月28日までとなっている。（公園内に工事の看板が掲示されている。）
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景100選ということに加え、お茶の郷（6月から県へ移管）、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。
- ・富士見茶屋は手を入れるので地元の方に運営をしていただきたいと考えている。

■金中跡地の開発についてなど

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から8年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費（補助金）をもらって整備をしてきている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング（ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということも勘案して提案すること。）を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画（約束＝底地は市が用意して上物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていききたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えてい

る。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

- ・こうした様々な取り組みによって市民病院も近隣からの来院者が増える病院になると考えている。(最新の機器が整備される。)
- ・学校も建て替えの時期が迫っている中、小中連携をはじめ、ICT教育などにも力をいれ、将来の島田人を育成していきたい。
- ・10年先、20先を見据えた都市経営が行政には求められている。島田市は都市経営をする会社であり、島田市を持続可能な都市とするためには今何をしたら良いかを考えるのが行政の役割であると考えている。

■地域の抱える課題等について(その2)

- ・行政も人口も緩やかに減り続ける中、高齢者が増えるということに対応するため、子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。
- ・一方で、2030年くらいには、働いて税金を払ってくれる人の数が減っていく。(人口の約半数になると推計されている。)
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計(老後についても)ができた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった(高度成長期)と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人が増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・行政は行財政改革を進めるとともに時代あった組織が必要。また、財政的にみれば、選択と集中による行政運営が必要。
- ・国も国民一人当たりの借金が826万円ということが報道されている中、若い人も島田に住んでやりたいこと(自分たちの政策を形にすること)があると思う。自分たちの時代のことは自分たちで何とかしようという考え方を持たないと、持続可能な都市経営はできない。これは一般論として御理解いただけると思う。
- ・市有地の草刈や川ざらいなど、今までどおりやってきたことが今までどおりできるのかという課題がある。
- ・地域での高齢者の見守りについては、地域の皆様の声掛けなどの協力なくしては成り立たない。こうしたことは、我々にとっては当たり前のことかもしれないが、都会の人からしてみればうらやましいことである。
- ・自分たちの抱えている課題を解決するために何かしら動きだすまちをつかっていってもらいたいと考えている。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。(道悦島の事例)
- ・市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域も

ある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。(路線や運転手は皆さんで考えていただきたい。)

・ご町内が地域で助け合う活動ができれば、選ばれるまちになっていくと考えている。市内でも、こうした取り組みに地域ごと差が出てきていると感じている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■根岸住宅跡地について</p> <p>跡地を地域の公園にしたいという要望を市に出してある。継続して出している。子どもから高齢者まで和める地域にしていきたい。地域で小さい防災訓練をしたくてもできないため、そういった訓練もできると考えている。</p>	<p>●住宅の跡地の面積が、登記上の面積として境界を求めると、市道までかかってしまうため、まだ境界の確定ができていない。</p>
1-2	<p>■初めて聞いた。</p>	<p>●境界がはっきりしていないので、その後の使い道を保留している。要望を継続していく中で相談させていただきたい。</p>
2-1	<p>■大代川の浚渫について</p> <p>最近災害が多い。一級河川の大代川の河床を掘り下げてほしいと、長年要望しているが、一向にやっていない箇所がある。</p> <p>場所は、金谷庁舎付近の「新橋」から上流で大代インターまでの間。かつて決壊した新昭代橋と昭代橋の間は工事をやっている。毎年やっている。下流部については何回要望をしてもやってくれない。人間の手ではできないと考えている。</p>	<p>●県管理の河川であり、県も浚渫の予算がないというところではあるが、それでも危険度の高いところから実施していると聞いている。</p> <p>私からも県にお願いはしておくが、地元からも要望書を継続して出してもらいたい。毎年やることはよっぽどの理由があると思う。</p>
3	<p>■道路の補修について</p> <p>栄町公会堂から根岸公会堂に抜ける道があるが、その早川の法面に亀裂が入っていたので、補修のお願いをしたらちょっとやっただけで終わっている。ほったらかしになっているので、いつやってくれるのか。</p> <p>(今年度要望 42 番)</p>	<p>●土木管理課に確認するよう伝えておく。</p>

5	<p>■空き家対策について</p> <p>高齢化世帯が多くなり空き家が目立つようになってきているが、今後、災害等で家屋が壊れた場合に、地元ではその所有者は分からない。このような場合について市ではどのような対応をするのか。</p>	<p>●空き家対策特別措置法が施行され、危険な空き家は更地にするよう、行政が所有者に勧告できるようになった。危険な空き家（特定空家）が市内に何軒あるか今年度調査している。特定空き家は、1年以上放置した場合、今の固定資産税の6倍の税金をかけるという法律の改正も行われている。（住宅用地の場合）</p> <p>個人の財産であるということが課題。行政が強制的に撤去することは可能であり、その費用はその持ち主等に請求することになるが、その代金を支払わないという課題が全国の中でも出始めている。</p> <p>放棄された空き家の持ち主を捜すのが大変。相続人が何十人になっていると大変な作業になる。今後、空き家、放置宅地は全国的な課題となってくると思う。空き家率は現在2割だが、10年後は3割になると言われている。島田は空き家バンクなどで活用を促進している。地域に崩れそうな危険な空き家があれば、建築住宅課にお知らせいただきたい。市も対策に乗り出している状況である。</p>
6-1	<p>■空き家の活用について</p> <p>一戸建ての住宅が持てない子育て世帯などに、こういう空き家を斡旋できるのではないかと。斡旋のお手伝いを地域ですてあげれば、子どもにとってもいいことだと思う。</p>	<p>●いいアイデアをいただいた。家を新築するだけが良い訳ではない。空き家が増えていく中、リフォームする補助制度も考えている。また、中間支援については検討させていただく。</p>
6-2	<p>■高齢者の居場所、サロンなど、空き家の有効活用方法は何か考えているか。</p>	<p>●個人の財産なので勝手に使えないが、商店街などは裏に人が住んでいる場合であれば居場所づくりの場所として活用できると考えている。</p>
7	<p>■防災について</p> <p>金谷小学校が災害時の救護所になっているが、怪我の頻度を見てくれるのは歯医者さんと聞いている。金谷小学校は避難所マニュアルがあるが、先生が救護する時に、その先生と打ち合わせ訓練が行われていないので行う必要があるのではないかと。</p>	<p>●救護所の運営については、今年、リヤカーで二小からはなみずきに負傷者を搬送して、トリアージから治療までの訓練を行った。</p> <p>実践的な訓練を重ねていく。当然、救護所を変えながら訓練を実施する。</p>
8	<p>■災害時の大井川への仮の橋の架橋について</p> <p>大規模災害時に、大井川に架かる橋が通行不能となった時、金谷地域</p>	<p>●橋が使えなくなった時は、自衛隊が仮の橋を架けることはできると思う。場所については、そのときの被害状況等もあるので、現時点で決めてお</p>

	<p>から負傷者等を市民病院に搬送できなくなる。 自衛隊が大井川に仮の橋を架橋すると思うが、その場所をあらかじめ決めて訓練した方が良いのではないか。</p>	<p>くことは難しいが、自衛隊と島田市は非常に良い友好関係の下、実践的な訓練をしている。ただ、次回の自衛隊との訓練の一つに架橋の御提案については自衛隊にお話をしてみる。今後も防災・減災対策に力を入れていく。</p>
<p>9-1</p>	<p>■茶業政策について 現在、西原地区の基盤整備を行っているが、その中で気付いたこととして、市では茶業を基幹産業としているが、実際には後継者がいない。農地を資産として保有している方が多いが現状のままだと管理できない。農地の継承者がそういった経費を負担していくことは困難である。従って農地の集約を行えるようにしていかなければいけない。農業就労者の高齢化が叫ばれているが、ハード整備ができれば就労できると思う。こうしたことに対する市の取り組み、市民や就農者に対するアナウンスをお願いしたい。農業委員会のあり方について、改正農業委員会法に基づき10年20年のビジョンをもった基盤はあると感じているので、それに対する市の方向性は。</p>	<p>●御指摘されたことが市の課題認識と一致する。そのために、耕作放棄地対策の専門相談員を置いているのもしかり。若い人が食べて、稼げる農業にしていかなければならない。そのためには法人化、集約化がないと生き残れないと思っている。どういう支援ができるかについては、新規農業者への支援（市単独）を11月補正であげている。高齢になってもお茶の栽培のノウハウや茶葉を見る目は持っているので、若い方が茶畑を借りて、作りかたを教えてもらいながら修行する方法も必要であると思っている。耕作放棄地対策については、10アール当たり24万円の補助しており、さらに上乘せの話も出てきている。 西原地区の取り組みは、島田の茶業の希望に光だと思っている。なんとしても成功してほしい。 また、農業委員会は今まで農地を守ることが主眼だったが、今後は農地の適正利用ということになると思う。農業委員と推進委員との2階層になる。委員の選出は26地区に分けているが、どういう選抜の方法があるのか、女性や若い人を入れることなどの課題を整理している。この法律にも課題があると思っている。</p>
<p>9-2</p>	<p>■農地を持っている後継者が農地を継承するかというと、負担になるばかりである。現状では借り手が付かない。保有意識の改革が必要で、そうしないと現場は持たないと思う。遅きに失した感がある。</p>	<p>●そのことについては同感である。</p>
<p>10</p>	<p>■市民病院の医師の確保について 市民病院の建て替えについてその後どうなったのかと心配していたが、本日新聞に載っていたこと、市長から先ほどお話をいただいたので理解できた。 病院建設のほかに、医師の確保に全力を挙げていただきたい。医師不</p>	<p>●市民病院は昔から京大系といわれてきた。 京都大学からは面倒を見れないと言われていた。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現</p>

	<p>足は大きな問題で、開店休業の診療科目もあったと思う。私も呼吸器科を受診した際、消化器科の医師が診察に応じてくれた。医師の確保が難しいということは承知しているが、奨学制度によって医師の確保をしているところもあるので、是非医師の確保をお願いしたい。</p>	<p>在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかり抑えていきたいと思っている。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。10月にも麻酔科の医師がきてくれている。来年4月には准教授クラスの医師が来る予定。また、奨学金制度は島田市も持っている。様々な医師の待遇改善を実施している。90数人の医師がいるが100人になると安定的だと思っている。</p>
<p>11</p>	<p>■がん検診について 電話があつて、精密検査を行ってほしいとのことであつた。このため市民病院に検査のお願いしたが、1か月先にならないと検査できないといわれた。藤枝の市民病院は翌日検査できるとのことので検査をした。最終的にステージ1で、1週間程度の入院で済んで今は普通に生活している。1か月先になったら手遅れだったかもしれない。 ダヴィンチの医療機器を導入したので、医者も来るだろうが、医師の技術も向上してもらい、医療ミスをなくしていただきたい。</p>	<p>●「ちょうしんき」には、紹介状がいるかいないかの情報を掲載している。ほとんどの診療科で紹介状はいない。 ダヴィンチXiはすでに使える先生はいるが、技術力を挙げてもらうために1月から稼働としている。県内で4例目として導入した。</p>
<p>12</p>	<p>■教育行政について 金谷地域には小学校2校、中学校1校があるが、地元の校長、教頭がない。学校経営には地域を知った者であるほうがよい。榛原地区に地元の良い人材をとられている。何とか地元の校長、教頭の配置をお願いしたい。なかなか学校等には直接言えない。また、町の頃は金谷から校長会の会長が輩出されていた。</p>	<p>●旧榛原郡の先生方は、島田と合併して島田籍の先生となっている。交流という形で牧之原市等に行っている。常時の転勤は島田市内ということになる。島田の学校に赴任すれば、たとえ市外の先生であっても、地元を理解し、地元の皆さんに助けをもらいながら、地元を馴染もうとして頑張っている。お話は教育長には伝えておく。合併当初は、榛原籍と島田籍の先生で、教え方、気質などに違いがあつたようだが、その中でも馴染もうとしてがんばってくれていた。この春まで、4年以上金谷小学校の校長が校長会の会長だった。</p>
<p>13</p>	<p>■河川の浚渫について 金谷高校のグラウンドの近くの道路の水はけが悪い。河川の排水を良くしてほしい。(写真の提示有) 下流が金校の入口。中流が高校のテニ</p>	<p>●担当に見に行かせる。自治会長さん御連絡をさせていただく。</p>

	スコートやグラウンドで川ざらいのときに土砂を上げるが水はけが悪い。何年も話をしているが対応をしてきていない。	
14-1	<p>■職員の対応について</p> <p>職員の電話対応が非常に悪い。課の特定はしない。</p>	<p>●職員に皆さんの仕事の先に市民の顔が見えるかと常々言っている。電話対応は顔が見えないので気をつけなければならない。一生懸命やっているつもりだが、なお一層努力する。</p>
14-2	<p>■新規採用職員などの初期の訓練が必要。</p>	<p>●やっていると思うが、さらにやらせる。</p>
15	<p>■観光協会と市の関係について</p> <p>観光地の草が生い茂っており、気がついたので草を刈ったが、お客さんの立場で考えないとお客さんは来ない。市で燃料を出せばやってくれる人はいるのではないか。</p>	<p>●リバーフレンドシップなどは機具、燃料などを出して地元の方をお願いしている。観光協会が観光地の管理も含めて、人手などの課題もあると思うが、市民の皆さんと一緒にやるのであれば、ボランティアを募るなどやり方はあると思うのでこの内容については伝えていく。</p>
16	<p>■ゴミの減量化について</p> <p>ゴミの焼却灰の処理で、ごみ袋の値段が上がるのではないかと心配している。熔融炉を動かしていくためにはごみがたくさんあったほうがいいということをきいたことがある。</p>	<p>●ゴミは減量していただきたい。助燃材として、最終処分場に埋めたものを掘り起こして活用している。島田市は熔融炉ということで他市よりも出しやすいということが減量につながらないこともあるが、資源ごみになるものは資源ごみとして出してほしい。</p>
17-1	<p>■建ぺい率について</p> <p>この地域の建ぺい率が40%になっている。道路が狭くて良好な住宅地ではない。</p>	<p>●用途地域のときにそういう条件で建ぺい率を決めている。第一種低層専用住宅地域に指定されていて、それだけ良好な住宅地ということになる。</p>
17-2	<p>■道路が狭くて良好な住宅地ではない。</p>	<p>●用途の見直しは、専門家会議の中でやっているが、上げられるかどうかはわからないかお話は担当課に伝える。</p>
18	<p>■市立学校のトイレについて</p> <p>学校のトイレは生活様式に伴って洋式への変更への要望があるか。</p>	<p>●全部洋式化することが望ましいと思っているが、学校側は洋式と和式との併用を考えている。学校側は洋式の便座に他の子どもが座るのを嫌うというが、圧倒的に洋式の方が、利用率が高い。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤時間内に質問できなかった質問及び回答（報告）

番号	質問内容	市からの回答（対応状況）
1	<p>■志戸呂下の建ぺい率変更について （現在、建ぺい率 40%、容積率 60%） 前年からの懸案、建ぺい率、容積率の話です。是非とも、改定できるように、市役所の準備をしてほしいです。改定の話は聞かないので、職員が、改定方法を知らないと思うのです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ・建築物の建ぺい率や容積率は、静岡県が示している用途地域の指定基準に即した形で道路などの基盤整備の状況から総合的に判断されます。 ・現在の基盤整備の状況から、建ぺい率や容積率を直ちに変更することは困難と認識しております。 ・今後、道路などの基盤整備の状況を見ながら検討していきたいと思えます。
2	<p>■島田高校駅伝全国大会の話です。 二年前に市長も京都に来てくれましたが、島田市を全国にアピールする絶好の機会です。 平野神社では、県人会が応援してくれます。 私の提案は、平野神社一角をお借りして、お茶と椎茸セット 1000 個</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前回までと同様に、スポーツ振興課の職員を中心に現地に出向いて応援をする予定であります。また、それと合わせて、島田高校の応援の方々に応援グッズの提供をさせていただく予定です。 （ジャンパーや帽子約 50 セット程度） なお、ご提案いただきました市の PR を兼ねた特産品の配布につ

	<p>を無料配布したらどうかと思います。京都地元方々だけにでも、広報したいです。緊急ですが、いい税金の使用法とおもいます。以上、緊急提案でした。</p>	<p>いてですが、特産品の選定については農林課と協議を行っております。また、配布の可否については、大会事務局に確認後、平野神社へ企画書を送り回答を待っている状況です。</p>
--	--	---